

麻機遊水地「防災拠点に」

県は静岡市葵区の麻機遊水地にあるスポーツ広場で、貯水量確保のための掘削工事に乗り出した。昨年10月の台風18号で家屋の浸水被害が市内で相次いだことを踏まえ、治水機能の向上を図る。広場は大規模災害時に活用する市の「拠点ヘリポート」にも指定されていて、地元関係者からは掘削を機に、遊水地周辺地域を防災拠点として一体的に整備するよう求める声も上がる。



県、貯水容量増へ広場掘削 地元 周辺の一休整備期待

治水機能向上のため県が掘削工事に乗り出した「浅畑スポーツ広場」

静岡市葵区



掘削が始まったのは、麻機遊水地第3工区の北側にある「浅畑スポーツ広場」。県静岡土木事務所は広場の高くなっている部分を掘削して平らにすることで、貯水容量を現在より約3万2千立方メートル増やす方針。結果的にヘリポートとしても使

いやすくなるという。県静岡土木事務所などによると、同広場には現在、木が10本以上植えられている。市が

麻機遊水地の環境保全や自然再生を目指す

県側に申し入れて2004年に「仮植え」として植栽した。ただ、大雨などで木が倒れた場合に洪水の原因になる恐れもあることから、市は撤去を決めたという。

麻機遊水地周辺のエリアは同広場のほかに、大規模災害が発生した際に緊急物資や負傷者などを搬送する「拠点ヘリポート」に指定された用地がある。さらに、新東名高速道や国道1号静岡バイパスのインターチェンジ（IC）が近く、病院や物流拠点も存在する。

麻機遊水地の環境保全や自然再生を目指す

「ベーター麻機部会」の竹下博実さん（66）は「大規模災害が発生した場合には拠点としての機能を十分に果たし得る地域。住んでいて安心できるよう整備すること、地域の人口減に歯止めをかけることにもつながるので」と期待を寄せる。